

朝鮮語の情報構造と名詞述語文

黒島規史, 崔 正熙

1. はじめに

本稿では、特集「情報構造と名詞述語文」のアンケートに沿って、朝鮮語の例文を提示し、それに適宜補足説明を加える。

朝鮮語のデータを提示するに先立って、朝鮮語の情報構造に関して簡単に述べる。Lambrecht (1994: 6) によれば、情報構造に関わるカテゴリーに、前提と主張 (presupposition and assertion), 同定可能性と活性化 (identifiability and activation), そして主題と焦点 (topic and focus) がある。朝鮮語でこれらに関わるのは主題や対比を表す -un/nun と主格の -i/ka であろう。朝鮮語の -un/nun と日本語の「ハ」、-i/ka と「ガ」には共通点も多いが、先行研究で度々言及されているように次のような相違点もある。

이것이 무엇입니까?

ikes-i mwues-i-pnikka?

これ-NOM なに-COP-INTRR.POL

「これは (*が) なんですか?」

【田窪行則 (1990: 840), 例文 (20) にハングル表記とグロスを加え、一部転写と日本語訳を改める】

田窪行則 (1990: 840) は「韓国語では un/nun (=ハ) を使えるのは、実際に話題に出てくるか、世間で話題になっているもの、現在の状況から問題となる要素が推測できるもの、また一般知識のように、明白に前提知識となっているものに限られる」としたうえで、上の例文のような事実から日本語では、それが初出のものであっても、相手の知っている要素はすでに導入してあるものとして「は」でマークできると述べている。井上優 (2012: 684) はさらに、日本語と朝鮮語は上のような例において「どのタイミングで事物を既知扱いできるか」が異なるだけではなく、「どのタイミングで事態を過去扱いできるか」も異なると指摘している。後者について井上優 (2012: 683) は次のような例を挙げている。

(待っていたバスが来るのが見えた。バスが来るのを見ながら)

a. 来た。

b. 온다. / #왔다. (来る. / 来た.)

o-nta. / #w(<o)-ass-ta.

来る-DEC.NPST 来る-PST-DEC

【井上優 (2012: 683), 例文 (43) にラテン文字転写とグロスを加えて引用する】

このように日本語と朝鮮語はどのタイミングで出来事を既知、あるいは過去のものとして既出にできるかが異なるのである。井上優 (2012) で述べるように、このような現象は両言語のさまざまな特徴に関わっていると考えられ、これらも含めて朝鮮語の情報構造を考えることが重要になるかもしれない。

また、「ハ」と *-un/nun*, 「ガ」と *-i/ka* だけでなく、無助詞の場合も考慮に入れる必要があるが、朝鮮語についての無助詞の研究に金智賢 (2009) がある。

2. 朝鮮語データ

朝鮮語の情報構造と名詞述語文について見ていく。例文の朝鮮語はハングル表記と Yale 式ラテン文字転写にグロスを付して提示する。アンケートの日本語例文を朝鮮語で表したときに日本語とは違う表現を用いる場合、グロスの下にさらに「」を加え日本語訳を示す。

【対比焦点 (主語)】

- (1) 「えっ、一郎が来たの?」「いや、一郎じゃなくて次郎が来たんだ。」

“뭐, 이치로가 왔었다고?”

mwe, ichilo-ka w(< o)-assoss-ta-ko?

INTJ 一郎-NOM 来る-PLPF-QUOT-CVB

“아니, 이치로가 아니라 지로가 왔었다고.”

ani, ichilo-ka anila cilo-ka w(< o)-assoss-ta-ko.

いや 一郎-NOM NCOP.CVB 次郎-NOM 来る-PLPF-QUOT-CVB

アンケートでは「(例えば、昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で)」という状況が設定されていたため、朝鮮語例文は引用形を用いて確認を表すことになる。ここで、対比される主語は主格でマークされている。

【WH 焦点 (主語)・WH 応答焦点 (主語)】

- (2) 「誰が来た (の)?」「一郎が来たよ。」

“누가 왔어?”

nwuka w(< o)-ass-e?

誰.NOM 来る-PST-INTRR

“이치로가 왔어.”

ichilo-ka w(< o)-ass-e.

一郎-NOM 来る-PST-DEC

WH 焦点（主語）、WH 応答焦点（主語）はともに主格でマークされる。nwuka（誰が、誰か）は疑問と不定の形態が同一であり、前者の場合は nwuka に強勢が置かれ、文は一続きに発音される。

【YesNo 疑問・形容詞述語応答焦点】

- (3) 「一郎の方が大きいんじゃないの?」「いや、一郎じゃなくて、次郎の方が大きいんだよ。」

“이치로가 더 큰 거 아냐?”

ichilo-ka te khu-n kea anya?
一郎-NOM より 大きい-ADN こと NCOP.INTRR

“아니, 이치로가 아니라 지로가 더 커.”

ani, ichilo-ka anila cilo-ka te khe.
いや 一郎-NOM NCOP.CVB 次郎-NOM より 大きい.DEC

形容詞述語の場合も同様に焦点は主格でマークされる。朝鮮語では日本語のように「～の方が」を直訳することはできず、「～がより」と表す必要がある。

【文焦点（自動詞文）】

- (4) [電話で]「どうした(の)?」「うん、今、お客さんが来たんだ。」

“왜 그래? 무슨 일 있어?”

way kulay? mwusun il iss-e?
なぜ そうだ.INTRR なんの 事 ある-INTRR
「どうしたの? なにかあったの?」

“응, 지금 손님이 왔거든.”

ung, cikum sonnim-i w(<o)-ass-ketun.
うん 今 お客-NOM 来る-PST-REAS

アンケート例文の「どうした(の)?」は朝鮮語で直訳はできず、様々な訳が考えられるが、ここでは2番目の発話をする人が、電話相手以外に話しかけた、あるいは物音を立てた等の場合を想定して朝鮮語例文を提示する。応答の朝鮮語例文では聞き手が未知であることを想定して理由や根拠を提示する -ketun が用いられている。

【対比焦点（目的語）】

- (5) 「あの子供が一郎を叩いたんだって! ?」「いや、一郎じゃなくて、次郎を叩いたんだよ。」

“저 아이가 이치로를 때렸다고?”

ce ai-ka ichilo-lul ttayly(<i)-ess-ta-ko?

あの 子供-NOM 一郎-ACC 叩く -PST-QUOT-CVB

“아니, 이치로가 아니라 지로를 때렸다고.”

ani, ichilo-ka anila cilo-lul ttayly(<i)-ess-ta-ko.

いや 一郎-NOM NCOP.CVB 次郎-ACC 叩く -PST-QUOT-CVB

目的語の対比焦点である「次郎」は、朝鮮語でも日本語と同じく対格でマークされる。

【対比焦点（目的語，特に「どっち」という対比的な疑問語の場合）】

- (6) 「赤い袋と青い袋があるけど，どっちを買う（の）?」「（私は）青い袋を買うよ。」

“빨간 봉지하고 파란 봉지가 있는데 어느 쪽을 살래?”

ppalka-n pongci-hako phala-n pongci-ka iss-nuntey enu ccok-ul sal-lay?

赤い-ADN 袋-COM 青い-ADN 袋-NOM ある-CVB どの ほう-ACC 買う-VOL

“(난) 파란 봉지를 살래.”

(na-n) phala-n pongci-lul sal-lay.

わたし-TOP 青い-ADN 袋-ACC 買う-VOL

(5) と同じく目的語の対比焦点は対格でマークされる．日本語では応答で「青い方を買うよ」とも言えるが，朝鮮語ではやはり (3) のところで見たように「～の方を」と言うと不自然になる。

【述語焦点】

- (7) 「一郎はどうした?」「一郎は朝からどっかへでかけたよ。」

“이치로는 왜 안 보여?”

ichilo-nun way an poy(<i)-e?

一郎-TOP なぜ NEG 見える-INTRR

「一郎はどうした? (lit. 一郎はなぜ見えないんだ?)」

“이치로는 아침부터 어디 갔어.”

ichilo-nun achim-pwuthe eti ka-ss-e.

一郎-TOP 朝-から どこか 行く -PST-DEC

(4)と同様に「どうした？」を朝鮮語で直訳することはできず、より具体的に聞き手に尋ねなければならない。アンケートでは「(例えば、朝少し遅く起きて来た一郎の父親が、姿の見えない一郎について母親に尋ねている場面で)」となっていたので、朝鮮語は「一郎はどうした? (lit. 一郎はなぜ見えない?)」として提示する。焦点から外れる「一郎」は主題標識でマークされている。

【WH 焦点 (目的語)・WH 応答焦点 (目的語)】

(8)「(あの子供は) 誰を叩いたの?」「(あの子供は) 自分の弟を叩いたんだ。」

“저 아이가 누구를 때렸어?”

(ce ai-ka) nwukwu-lul ttayly(<i)-ess-e?

あの 子供-NOM 誰-ACC 叩く -PST-INTRR

“저 아이가 자기 남동생을 때렸어.”

(ce ai-ka) caki namtongsayng-ul ttayly(<i)-ess-e.

あの 子供-NOM 自分 弟-ACC 叩く -PST-DEC

WH 焦点 (目的語)・WH 応答焦点 (目的語) は日本語と同じく対格でマークされる。日本語例文「(あの子供は)」の部分は、朝鮮語の場合、特に対比の意味でなければ主題ではなく主格としてマークされる。

【文焦点 (他動詞文)】

(9) [電話で]「どうした (の) ?」「うん、一郎が (自分の) 弟を叩いたんだ。」

“무슨 일이야?”

mwusun il-i-ya?

なんの 事-COP-INTRR

「どうした? (lit. なんのことだ?)」

“응, 이치로가 (자기) 남동생을 때렸어.”

ung ichilo-ka (caki) namtongsayng-ul ttayly(<i)-ess-e.

うん 一郎-NOM 自分 弟-ACC 叩く -PST-DEC

アンケートでは「(例えば、電話の向こうで子供の泣き声起きたのを聞いての発話)」という状況が与えられている。聞き手の周りの状況について尋ねる場合, mwusun iliya? (どうした? (lit. なんのことだ?)) と言うことができる。応答の文では、日本語と同じく「一郎」は主格, 「弟」は対格でマークされている。

【目的語主題化, 主題 (目的語) の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

(10) 「あのケーキ, どうした?」「ああ, (あれは) 一郎が食べちゃったよ。」

“그 케이크 어떻게 했어?”

ku kheyikhu ettehkey hay-ss-e?

その ケーキ どう する-PST-INTRR

“아, (그건) 이치로가 먹어 버렸어.”

a (kuke-n) ichilo-ka mek-e pely(< i)-ess-e.

INTJ それ-TOP 一郎-NOM 食べる-CVB すてる-PST-DEC

特に対比的な意味でない場合, 朝鮮語も日本語と同じように「あのケーキ」は無助詞が自然であり, また, 応答の文においても主題化された目的語は現れなくてもよい。対比の場合, 質問の方は ku kheyikhu-nun (その ケーキ-TOP) のように主題のマーカーを付け, 応答の方でも kuke-n (それ-TOP) のように指示代名詞に主題のマーカーを付けるのが自然である。

【分裂文】

(11) 「私が昨日お店から買って来たのはこのリンゴだ。」

내가 어제 가게에서 사 온 것은 이 사과이다.

nay-ka ecey kakey-eyse sa on kes-un

わたし-NOM 昨日 店-LOC 買う.CVB 来る-ADN.PST もの-TOP

i sakwa-i-ta.

この りんご-COP-DEC

分裂文を作る際には, 日本語では「ノ」を用いるが, 朝鮮語では kes (こと, もの) を用いる。日本語例文に対応する朝鮮語は, 日本語のそれと類似した構造を見せているが, 分裂文において焦点となる名詞句が有情物である場合はぞんざいな印象を与えるようになり, salam (人) を用いる方が自然である。

내가 어제 만난 ?것/사람은 이치로이다.

nay-ka ecey manna-n ?kes/salam-un ichilo-i-ta.

わたし-NOM 昨日 会う-ADN.PST もの/人-TOP 一郎-COP-DEC

「わたしが昨日会ったの（人）は一郎だ」

日本語の「ノ」に比べ、朝鮮語の kes（こと，もの）はモノ的意味を強く残しているためだと考えられる。

【措定文 主題（名詞述語文の主語）の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

(12) 「あの人は先生だ。この学校でもう3年働いている。」

저 사람은 선생(님)이다.

ce salam-un sensayng(nim)-i-ta.

あの 人-TOP 先生-COP-DEC

이 학교에서 벌써 3년째 일하고 있다.

i hakkyo-eyse pelsse 3-nyen-ccay ilha-ko iss-ta.

この 学校-LOC もう 3-年-目 仕事する-CVB いる-DEC

措定文は、朝鮮語においても日本語と同じようにコピュラ -ita を用いた名詞述語文で表れる。また措定文「A ハ B ダ」の主題マーカ「ハ」は朝鮮語では -un/nun だけでなく主格助詞 -i/ka で表すこともできる。この場合、-i/ka は「排他的焦点」ではなく、特定の指示項を発話に導入する「提示的焦点」を表すものになる。

朝鮮語では -ita の品詞をめぐり様々な議論があり、学校文法では「叙述格助詞」とされているが、独立した用言のひとつとして「指定詞」とする説もある。この説では、-ita が「A i/ka B ita」という形式で「A が B である」ことを「指定」する機能をするとしており、(12) の場合は、A が B という「属性」を持つことを「指定」する文と言える（属性指定¹⁾）。

¹ Choy Wunghwan (2005: 256) では「A i/ka B ita」または「A un/nun B ita」の形式で表れる「ita」構文における先行名詞 A と B の関係は「同一性」または「対象に対する属性」であると述べており、Nam kilim (2004: 31) では -ita の基本的な語彙意味は「同一性指定」と「属性指定」であるとしている。本稿ではこれらの先行研究に従い、コピュラ -ita の機能を①「同一性指定」と②「属性指定」の二つに分けることとする。一方、na-n khephi-i-ta（私はコーヒーだ）のような、いわゆるウナギ文については、Nam kilim (2004: 197) は「同一性指定」や「属性指定」というよりは一定のコンテクストの中で話し手と聞き手が共通的に認識している余剰情報に関連した「指定」であり、この場合の「指定」の意味は

なお、例文 (10) で目的語の省略が可能であったように、主題（主語）についても後続文に同一主題（主語）を参照する場合、これは現れなくてもよい。

【倒置指定文】

- (13) 「彼のお父さんは、あの人だ。」

그의 아버지는 저 사람이다.

ku-uy apeci-nun ce salam-i-ta.

彼-GEN 父-TOP あの 人-COP-DEC

朝鮮語の倒置指定文も同じくコピュラ -ita を用いた「A un/nun B ita」で表れる。朝鮮語では「倒置指定文」「指定文」「倒置同定文」「同定文」で用いられるコピュラ -ita はいずれも A と B が「同一」であることを「指定」する機能をすると考えられる（同一性指定）。また、(13) の朝鮮語文は日本語と同様に「彼のお父さんは誰か」という問いへの呼応文として用いられる。

【指定文】

- (14) 「あの人が彼のお父さんだ。」

저 사람이 그의 아버지이다.

ce salam-i ku-uy apeci-i-ta.

あの 人-NOM 彼-GEN 父-COP-DEC

指定文は朝鮮語の -ita 構文の典型的な例であり、主格助詞 -i/ka を用いた「A i/ka B ita」で表れる。また、これは「誰が彼のお父さんか」という問いへの呼応文であり、この場合、主格助詞 -i/ka は「排他的焦点」を表すものになる。

【定義文】

- (15) 「あさってっていうのはね、あしたの次の日のことだよ。」

「要求、確言、命令、提案…」のような発話内行為 (illocutionary act) と密接な関係があるとしている。nayngcangko-nun samseng-i-ta（冷蔵庫はサムスンだ）や (yeksi) emeni-nun emeni-i-ta（（やはり）お母さんはお母さんだ）のような文もこのような枠内で語用論的にアプローチする必要があると考えられる。

- a. 모레란 말이지, 내일의 다음 날을 말하는 거야.

moley-lan mal-i-ci nayil-uy taum nal-ul malha-nun ke-(i)-ya.

あさって-とは言葉-COP-CVB 明日-GEN 次 日-ACC 言う-ADN.PRS こと-(COP)-DEC

定義文における述部「B ノコトダ」は朝鮮語で対応する表現である B-i-n kes-i-ta (B-COP-ADN こと-COP-DEC) では表すことができず, (15a) B-ul/lul malha-nun kes-i-ta (B ライウノダ) で表すことができる. (15b) A-lan B-ul/lul malha-ta (A トハ B ライウ), (15c) A-un/nun B-i-ta (A ハ B ダ) のように表すこともできる.

- b. 모레란 내일의 다음 날을 말한다.

moley-lan nayil-uy taum nal-ul malha-nta.

あさって-とは 明日-GEN 次の 日-ACC 言う-DEC.NPST

- c. 모레는 내일의 다음 날이다.

moley-nun nayil-uy taum nal-i-ta.

あさって-TOP 明日-GEN 次の 日-COP-DEC

【ウナギ文】

- (16) [何人かで入った喫茶店で注文を聞かれて]「私はコーヒード。」²

- a. “난 커피.” / b. “전 커피요.”

na-n khephi. / ce-n khephi-yo.

わたし-TOP コーヒー わたし-TOP コーヒー-POL

- c. “난 커피야.” / d. “전 커피예요.”

na-n khephi-(i)-ya. / ce-n khephi-yeyyo.

わたし-TOP コーヒー-(COP)-DEC わたし-TOP コーヒー-COP.DEC.POL

朝鮮語においてもウナギ文の「A ハ B ダ」はコピュラ -ita を用いた「A un/nun B ita」で表すことができるが, 文のニュアンスは日本語のそれとやや異なると言える. (16) のような場面において, 店員に対してではなく一緒にいる友達や目下に対しての発言ならば

² 「私はコーヒード」を逐語訳すると na-n khephi-i-ta (わたし-TOP コーヒー-COP-DEC) になるが, 実際の談話において注文を聞かれた場面ではこのような文はほとんど使われないと考えられる. ただし, 注文をするためにカウンターに向かう友達や目下の人に対して, 「私はコーヒードよ. 忘れないでね.」と念を押す場面では使うことができる. この場合, 語尾は上昇調の抑揚になる.

(16a) の「わたしはコーヒー」のように名詞止めで表すことができる。あるいは店員に丁寧に話す場合は (16b) のようにコピュラ -ita を付けず、丁寧さを表すマーカー -yo/iyo を直接つけた文が最も自然と言える。

(16c), (16d) のようにコピュラ -ita を用いた場合は、日本語とは異なり、「わたしはいつも／今日もコーヒーだ」のように習慣や反復を表す文になり、同場面においてこのような発話をする「わたしはいつもコーヒーだ、だからわざわざ言わなくてもわかるでしょ？」または「わたしは言うまでもなく今日もコーヒーです」というニュアンスを含む文になる。

朝鮮語のウナギ文は「習慣」や「反復」の意味を表す次のような副詞表現と一緒に用いられるとより自然な文になる。hangsang (いつも), onulto (今日も), myail (毎日), acikto (未だに), yecenhi (依然として), または「A モ B ダ」のように補助詞 -to (-も) が用いられる場合が多い (16e, f). 特に「B」に動作性のある名詞が来る場合はこのような傾向はより強くなる (16g, h). そのため、「習慣」や「反復」のような意味を含まない場合は、名詞述語文ではなく動詞文で表す必要がある。

e. *저는 걱정이예요.

ce-nun kekceng-i-eyyo.

わたし-TOP 心配-COP-DEC.POL

「わたしは心配です」

f. 저도 걱정이예요.

ce-to kekceng-i-eyyo.

わたし-も 心配-COP-DEC.POL

「わたしも心配です」

g. *아버지는 산책이예요.

apeci-nun sanchayk-i-eyyo.

お父さん-TOP 散歩-COP-DEC.POL

「お父さんは散歩です」

h. 아버지는 오늘도 산책이예요.

apeci-nun onul-to sanchayk-i-eyyo.

お父さん-TOP 今日-も 散歩-COP-DEC.POL

「お父さんは今日も散歩です」

【逆行ウナギ文】

(17) [注文した数人分のお茶が運ばれて来て「どなたがコーヒーですか？」との問いに]
「コーヒーは私だ.」

a. “어느 분이 커피세요?”

enu pun-i khephi-(i)-seyyo?

どの 方-NOM コーヒー-(COP)-HON.INTRR.POL

「どの方がコーヒーですか？」

b. “저요.”

ce-yo.

わたし-POL
「わたしです」

c. “커피는 저예요.”

khephi-nun ce-yeyyo.
コーヒー-TOP わたし-COP.POL
「コーヒーはわたしです」

(17a) のような問いに対しては (16b) と同様にコピュラ -ita を用いずに、丁寧さを表すマーカーである -yo/iyo を一人称代名詞に直接つけた (17b) のような文が最も自然と言える。ただし、「どなたがコーヒーですか？」という問いが、店員の発話ではなく、一緒に喫茶店に来た人のものであれば、(17c) のように「A ハ B ダ」文で表すことができる。この場合「ハ」に当たる -nun は主題ではなく対比を表すマーカーになる。つまり、「紅茶やジュースではなくて、コーヒーはわたしだ」という意味を表すということである。

【形容詞述語文 修飾・並列・述語】

(18) 「その重くて厚い本は（値段が）高い。」

그 무겁고 두꺼운 책은 (가격이) 비싸다.
ku mwukep-ko twukkewu-n chayk-un (kakyek-i) pissa-ta.
その 重い-CVB 厚い-ADN 本-TOP 価格-NOM 高い-DEC

アンケートの例文は「その新しくて厚い本は（値段が）高い。」であったが、「新しくて」を朝鮮語に直訳すると不自然になるため、ここでは「重くて」に変更した。

【意外性 (mirativity)】

(19) [砂糖の入れ物を開けて] 「あっ、砂糖が無くなっているよ！」

“어, 설탕이 없네.”
e selthang-i eps-ney.
INTJ 砂糖-NOM ない-ADM

「意外性」は主に詠嘆や気付きなどの意味がある終止形語尾の -ney が表すと考えられる。この例では存在詞 eps- (ない) を日本語例文の「テイル」形のようにアスペクト形式を用いて表すことはできない。他の動詞の場合であっても、下の例文のように朝鮮語は状態変化の知覚に関しては過去形を用いて表すのが普通である。

“어, 커피가 떨어졌네.”

e, khephi-ka ttelecy(< i)-ess-ney.

INTJ コーヒー-NOM 落ちる-PST-ADM

「あ、コーヒーが切れてる」

また、李姫子・李鍾禧 (2010: 176)³ ではここで用いられた終止形語尾 -ney と似た意味を持つ終止形語尾 -kwun (kwuna) について、後者は過去の事柄を現在の時点で新たに気付いたときにも用いられるが、前者は用いられないと指摘している。さらに、李姫子・李鍾禧 (2010: 699-700)⁴ は次の (20) で用いられている終止形語尾 -ci と -kwun (kwuna) についての違いも指摘しており、前者は話し手が「既に知っている」事柄を述べるときに用いられるのに対し、後者は話し手が「はじめて知った」事柄を述べるときに用いられる、と述べている。朝鮮語における情報構造のあり方を考える際、このような各終止形語尾の情報構造に関わる意味の違いを把握することが重要である。

【思い出し】

(20) 「午後、誰かに会うはずだったなあ。誰だったっけ。あつ、そうだ！田中君だったな。」

오후에 누구 만나기로 했지? 누구였더라? 아, 맞다! 다나카 군이었지?

ohwu-ey nwukwu manna-ki-lo hay-ss-ci? nwukwu-y(< i)-ess-tela?

午後-DAT 誰 会う-NMLZ-INST する-PST-ASS 誰-COP-PST-WIT

a, mac-ta! tanakha kwun-i-ess-ci?

INTJ 合う-DEC 田中 君-COP-PST-ASS

「思い出し」には確言を表す終止形語尾 -ci が用いられる。聞き手が知っていることを前提に述べたり、そのことを確認したりする意味の他に、主に独り言で既定の事柄を確認する用法があるが、ここでは後者の用法である。過去形になるのは日本語と同様である。日本語例文の「誰だったっけ。」のところで用いられている -tela は目撃法ともいわれるが、ここでは話者の体験、目撃したことに基づいて回想する用法であるといえる。

略号一覧

³ 翻訳元の I Huyca, I Conghuy (2006) では p.127.

⁴ 翻訳元の I Huyca, I Conghuy (2006) では p.462.

ACC	accusative	対格	N	non-	非-
ADM	admirative	詠嘆	NCOP	negative copula	指定詞（否定形）
ADN	adnominal	連体形	NEG	negative	否定
ASS	assertive	確言	NMLZ	nominalizer	名詞化
COM	comitative	共同格	NOM	nominative	主格
COP	copula	指定詞	PLPF	pluperfect	大過去
CVB	converb	副動詞	POL	polite	丁寧
DAT	dative-locative	与位格	PRS	present	現在
DEC	declarative	陳述	PST	past	過去
GEN	genitive	属格	QUOT	quotative	引用
HON	honorific	尊敬	REAS	reason	理由提示
INST	instrumental	具格	TOP	topic	主題
INTJ	interjection	間投詞	VOL	volitive	意志
INTRR	interrogative	疑問	WIT	witness	目撃
LOC	locative	位格			

参考文献

朝鮮語で書かれたもの

- Choy Wunghwan.2005. “Kwuke muncanguy hyengseng wenli yenkwu” [国語の文の形成原理の研究], Seoul: Yeklak.
- I Huyca, I Conghuy.2006. “Hankwuke haksup haksupcayong emi/cosa sacen” [韓国語学習 学習者用 語尾・助詞辞典], Seoul: Hankwukmwunhwasa. (李姫子・李鍾禧.2010.『韓国語文法 語尾・助詞辞典』五十嵐孔一・申悠琳訳, 東京: スリーエーネットワーク.)
- Nam kilim.2004. “hyentay kwuke ‘ita’ kwumwun yenkwu” [現代国語 ‘ita’ 構文研究], Seoul: Hankwukmwunhwasa.

日本語で書かれたもの

- 井上優. 2012.「事態の叙述様式と文法現象——日本語から見た韓国語——」, 野間秀樹編『韓国語教育論講座』第2巻, 東京: くろしお出版, pp. 667-689.
- 金智賢. 2009.「現代韓国語の談話における無助詞について——主語名詞を中心に——」, 『朝鮮学報』第210輯, 朝鮮学会, pp. 37-84.
- 田窪行則. 1990.「対話における知識管理について——対話モデルからみた日本語の特性——」, 『アジアの諸言語と一般言語学』, 東京: 三省堂, pp.837-845.

英語で書かれたもの

Lambrecht, Knud. 1994. *Information structure and sentence form: Topic, focus and the mental representations of discourse referents*, Cambridge: Cambridge University Press.